

平成22年度 伊勢地域公共交通会議 第4回 議事要旨

■ 開催概要

日時：平成23年1月28日（金）15:30～

場所：伊勢市役所 東庁舎 4-2 会議室

出席者：全14名

市民代表 2名

一般乗合旅客自動車運送事業者

1名（三重交通伊勢営業所所長）

一般旅客自動車運送事業者

1名（三重県旅客自動車協会伊勢支部長代理）

一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車運転者が組織する団体

1名（三重交通労働組合執行委員長代理）

中部運輸局三重運輸支局

1名（首席運輸企画専門官代理）

三重県伊勢警察署 1名（交通第一課長代理）

三重県 1名（三重県政策部交通政策室長代理）

伊勢市 2名（市長・都市整備部長）

事務局 4名（伊勢市都市整備部交通政策課）

■ 議事内容

1. 平成23年度の運行（案）について

事務局より、平成23年度の運行（案）について、資料を用いて説明。

【地域検討部会の結果について】

地域検討部会の構成メンバーは、どのような方が参加しているのか。

（一般乗合旅客自動車運送事業者）

⇒ルート沿線の自治会長に参加していただいている。（事務局）

地域検討部会、自治会長さんということですが、各地域で、例えば、市民の方にアンケートをとられたことはないのですか。（市民代表）

⇒そういうところまではしていないと思います。基本的には、代表で出てもらうということで、地元からの意見を吸い上げてきてもらってる方もいますし、自治会長個人的な意見で言われてる方もいます。辻久留地区は、住民が積極的なところなので、吸い上げてきてもらっているというルートもあります。（事務局）

PRも兼ねて、自治会がアンケートを作れば一番いいのかもしれないけど、非常に大変だと思うので、例えばこんなアンケートをとって見たらどうですかという提案をすると、事前のPRにもなるし、本当の意味の声が吸い上がってきて、使っていただけるのではないかなと、提案だけですけど。(市民代表)

⇒自治会長にとっても、数年する地域もあれば、1年交代で変わっていく地域もあるので、そういう濃淡はありますけど、PRもこめてアンケートをしてくださいというのは、案として今後の課題とさせていただきます。(議長)

検討部会の結果を見ると、旧来からのいわゆる要望型かなと。市のほうでこういったことをやるからバスを引っ張ってほしいというのではなく、自治会、住民が主体でこんなイベントをするからバスを多く出してもらいたいとか、こういうところで需要があるから、ぜひここにバス停を作ってほしいというような、利用促進に関する意見は自治会長から出ていないのか。(三重運輸支局)

⇒一つの地域の中で利用促進のために、バスに乗って勉強会をしようという取組みをしている地域はあります。今、言われたような自分たちでベンチを置くとか、そういう形でいくと非常に利用も増えると思いますが、まだそこまで進んでいる地域はないのが現状です。(事務局)

⇒自治会との協同をどのようにしていくかというのは課題の一つですね。できれば市民の方々が、我々のバスであるということ認識していただいて、活用していただくように、また課題として取り組んでいきたいと思います。(議長)

【デマンド型サービスの導入について】

デマンドにすると、どれだけコストが軽減されるのか。(三重県)

⇒あくまで試算ですが、来年度は8月からの運行になるので、今の利用率の状態だと、400万～500万円くらいの軽減を見込んでいる。

予約制だと思いますが、その予約がなかったときに、タクシー会社に拘束料というのは支払うのか。(三重県)

⇒これはあくまでも今、見積りをいただいた概算の中では、運行あたりという形で考えている。(事務局)

それだったら、コストも下がって、メリットも十分あって、いいかなと思います。コストが下がらないのなら、定時定路線で走った方がのびやすいですね。(三重県)

湯田・新村ルートと小俣元町ルートを合体させてしまうと、地元の方は、ここからここへ行きたいのに、ルートどおり回らなければいけないという意見はなかったのか。(市民代表)

⇒一応、ルートを書いているが、基本的にはエリアでの指定と考えているので、どちらの方向へいくというのは示しながら、例えば、途中のバス停がなければ、ショートカットして、時間は早めに着くというような運行を考えている。(事務局)

今、路線の上を走っていく形ではなく、ショートカットもある区域運行という形でと言われましたが、先ほど三重県の方から、経費どれくらい削減になりますかという話で、1運行あたりという話がありました。これ1運行あたりというのが、要するに路線を回っていくものと、ショートカットする分があるので、できれば距離に応じた形に経費を計上していただくような契約ですと、さらにその経費というのは、もっと圧縮されるんじゃないかなと。もう一つ、今、事務局で考えている車両は、どの程度の車両を考えているのか。(三重運輸支局)

⇒現状としては、セダンタイプでの乗車人数くらいで賄える需要ですので、セダンタイプで考えている。(事務局)

セダンタイプを導入するというのは、非常にいいと思います。ただ、セダンタイプですと、車両が小さいですから、利用者同士が密着するとか、狭いとか、結構そういうのを嫌がる方もいるので、できればセダン型車両を使いますよと、利用者にもあらかじめ、そういった情報提供はお願いしたいと思います。(三重運輸支局)

デマンドをタクシーの方で入札をもってお願いしたいという話になれば、一度、各社を集めて説明会をお願いしたいと考えている。(一般旅客自動車運送事業者代理)

デマンドの運行方式の確認ですが、小木・田尻ルート为例にとりて、いせトピアと黒瀬市民館と2件予約が入っていた場合、五十鈴川駅を始発で運行すると、黒瀬市民館まではこの路線をずっと行くということでしたか。どの程度、ルートの自由度が利くのか。
(一般乗合旅客自動車運送事業者)

⇒これはどういうエリア設定で運行許可をとるかということになると思いますが、例えば、いせトピアから市民館の前であれば、この中の想定できる運行エリアを含めて、許可をとらせていただいて、そのエリアの中の道に行くことになる。(事務局)

基本的に平野部でのデマンドは、区域運行というのは非常に難しいです。今、区域運行しているところは、ほとんど山中の谷沿いのいくつかの集落を結ぶような形でしている。国道から集落へ入っていくような形のものも多く、その集落からの要望がなければ、直通で行ってしまうというものが非常に多いかと思ひます。

こういった平野部での集落が点在しているところで、ショートカットして運行するのは構わないのですが、ただ問題は、こういった点を多くすると、運送を請け負う事業者の方で、運行管理が非常に難しくなると思ひます。なるべく、限定した形で停留所を設けた形で、ほぼ一般的な路線を定めた標準的なモデルケース的なものを設定して、後は、実情に応じた形で運行する。例えば、いせトピアから黒瀬市民館に行くのであれば10分かかっていたのが、場合によっては5分でも着くような形になるかもしれません。そういう形で皆さん利便を図れるような運行をさせていただきますと、区域運行のいいところをアピールして、利用者を増やしていただきたいと思ひます。
(三重運輸支局)

バスの停留所は、このデマンド型が浸透してくれば、うちの方にも作ってくれという話も当然出てくると思ひます。利用促進の観点からそれでいいのかもしれませんが、停留所の選定にあたって、事前にガイドラインは作っておいてほしいと思ひます。(三重県伊勢警察署代理)

⇒以前設定したのが、半径 300m とあくまでも大きな車両が停まるようなところでした。他のところ
でしているのを見ると、利用しやすさの部分で、バス停を増やすということが、大きな一つの要素
になるのかなと思います。ご要望をいただいて、増やせる所は増やしていきたいですし、交通安全
的に問題がある所は、それは無理ですとはっきり言わせていただいて、一律に何 m だからという
ところはなかなか説明も難しいところです。(事務局)

セダン型の車両ということで、普通のバスですとバス停を新設しようと思うと、警察のところ
でバスレーンがないと、基本的にはだめですよということを、どこの自治体でもよく聞くん
ですけど、セダン型の場合は、普通の車と一緒になんですけど、そういう場合もバスレーン
はやはりいるんですか。(三重県)

⇒バスレーンまでは要求しませんが、当然、待つ人が立つわけなので、待っている人の安全施設、
もしくは、施設とまでは言いませんけど、場所ですね。路肩が広くて、かつ、見通しのきく場
所です。路肩は広いとは言えるものの、カーブを抜けたところだと危険が生じます。あと、もう
一点。道路、バス停に立つために道路を渡るという行為が当然生じますので、それに対する安全
施設(横断歩道)もできる限り整った場所を選んでいただきたい。
あまり直近には作れませんが、逆に直近の場所ですと、利用者以外の横断者の障害になってき
ます。常識的に考えて、普通の車が乗降していて危険が生じない場所が基本です。できれば
広いところがいいのは間違いないです。(三重県伊勢警察署代理)

区域運行で、何名の需要を見込まれているかわかりませんが、逆に1名だとしたら、限りなく
タクシーに近くなってしまいます。1名ばかり続くと、民業の圧迫という心配が出てくるかと思
うのですが。ここは観光地なので、観光客の需要がタクシーありますので、どうなのか。ある程
度ルートを走った方が残しやすいのかなと。1名でもやはり最短で結んでしまうのですか。
(三重県)

⇒もともとが、大きなバスで全体走らせていて、それが、要は誰も乗っていない便が増えてき
まして、効率的にいったほうがいいのかというのが一つですね。バスの運行なり、デマ
ンドの運行にしても民間の方です。市内の民間の方に運行していただきますし、もしご意見が
あればいただきたいなと思いますけど、今のところは民間圧迫というのは、そこまでの心配は
現実としてはしておりません。(議長)

⇒今の中で、当然、便数もありますし、エリアも、ある程度伊勢市の中で限られた区域ですので、
それと、民間の方へ委託しながらしていきますので。そのあたりは調整できているのかなと思
います。(事務局)

デマンドをすることによって、市民の方に安いタクシーができたなという誤解を与えないよう
にしてもらいたい。それと、デマンドというのは一種の手法であって解決策ではないんです。最終
的に公共交通というのは、ある程度の人数を運ぶことによって、コストが非常に低くなります。
最終的にこれで住民の方が満足するのではなく、ここからさらにバスへ復活するような形をぜひ
考えていただきたいなと思います。

安全の関係とかもあります。公民館の前に入るには、私有地を通るのであれば、土地の承諾書
が必要になります。例えば、〇〇公民館前という停留所がありましたら、できたら公民館の建物
の前までつけていただくと、公民館を待ち合わせ場所として、コミュニティの場所として、バス

を待つ間、そのところで待っていただくと、雨が降った場合、寒い日であっても、建物の中で待っていて、来たらず乗れるような形になるので、私有地にもどンドン入り込んでいただいで、利用者の利便を促進していただければと思います。場合によってはこれが、横断歩道を渡らずに済むという安全に即することになると思いますのでよろしくお願いします。

(三重運輸支局)

今、通常国会開催中で、今年の3月に交通基本法という法律ができると思います。その交通基本法ができた場合、国としては、当然、交通基本計画というのを定めようと思うんですけど、やはり、伊勢市でも、そういった交通基本計画を定めていただいで、その市としてのルールというものも定めていただくこととなります。例えば、街中については人口密度が高いから、バスでも運行できますよと。郊外の部分については、そういったデマンドがありますよと。できれば、デマンドと街中を走る、何らかの接続点を設けることによって、乗換えすることで、それぞれ区別を図っていくというのも一つの考え方かなと思います。(三重運輸支局)

今後、このデマンド型というのが小回りきいて増えてくるのかなと思います。この利用者は前回のアンケートを見ると、利用目的が通院、買い物、通学、要するに郊外から市街地へ集中しています。日赤周辺と、ララパークの周辺に医療施設がたくさんできてきて、ここへも集中してくるのかなと思います。その利用の使い分けですよ。選択肢を広げるという意味で、バス停の新設、そういう観点から見ていきたいと思っています。(三重県伊勢警察署代理)

デマンド型サービスの導入及び各路線の変更箇所について、事務局案どおりで了承する。

2. 平成22年度公共交通活性化・再生総合事業補助金の事後評価について

事務局より、平成22年度公共交通活性化・再生総合事業補助金の事後評価について、資料を用いて説明。事務局案どおりで了承する。

3. その他

- ・山田赤十字病院が平成24年1月に移転予定のため、現在乗り入れをしている御薊ルート、東大淀・日赤ルートを含めたダイヤ改正については、平成23年度の検討課題とすることが確認された。
- ・三重県から、国の制度改正に伴い、国補助要件が、生活交通バスと連結しているコミバスに補助するようになってくるため、県の幹線と市のコミバスが連携を密にしないといけないので、平成23年度にそういう話し合いをさせていただくので、協力をお願いしたい。